松江市立天文台
夏休みの天文教室「火星大接近2018」観察会

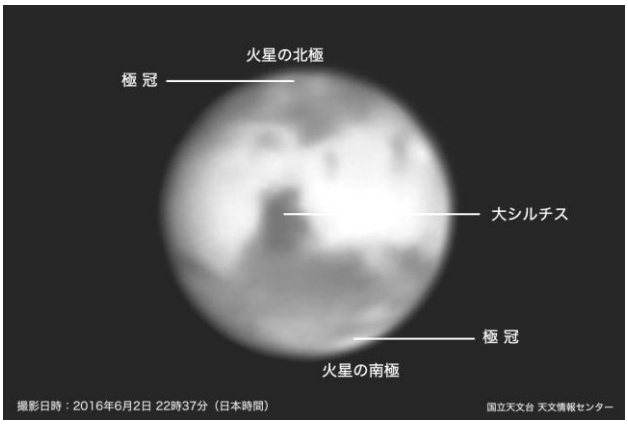
8月下旬午後9時頃の星空

火星は7月31日に、2003年以来15年ぶりに「大接近」とも呼ばれる近い距離で地球に最接近しました。「大接近」と聞くと、その日や時刻ばかりを気にしてしまいがちです。しかし、火星の明るさは6月下旬から9月上旬頃までマイナス2等を超え、今も観察の好機です。

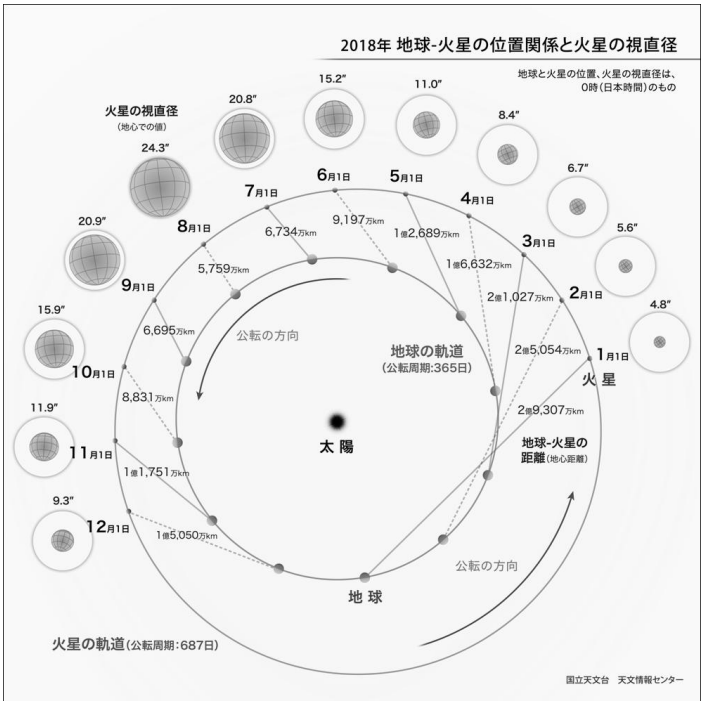
市立天文台「火星大接近2018」で歴史的な天文イベントを、お楽しみください。

8月下旬午後9時頃の星空です。
金星、木星、土星、および火星は8月下旬の位置を、月は8月21日から23日の毎日の位置を示しています。
各天体の見かけの大きさは強調してあります。
この星図で星を探すときは、見る方角を下にしてみましょう。

火星大接近！！

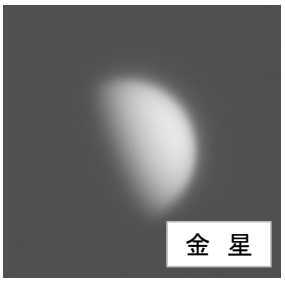


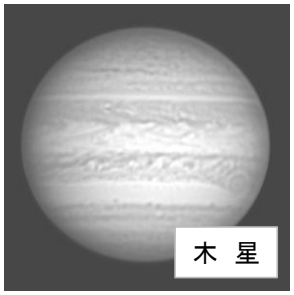
火星は地球に近づいたときにしか表面の模様を観察することはできません。赤と黒に見える表面模様、極地に見える「極冠」と呼ばれる白い部分が確認できます。

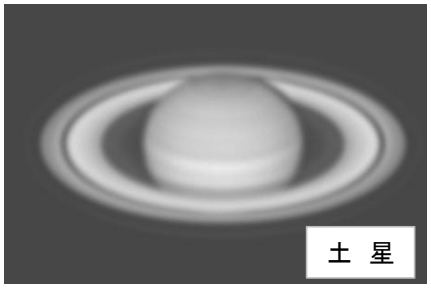


太陽の周りを回る天体を惑星（わくせい）と言います。私たちの地球も惑星のひとつです。
火星は地球の外側を回る惑星です。
その直径は地球のおよそ半分、質量（重さ）は地球の10分の１あまりしかありませんが、薄い大気があり、今も科学者はこの星に生命の痕跡（こんせき）をさがしています。
次に近づくのは2020年10月ですが、この時は今回より少し遠く、今回なみの「大接近」は2035年の９月に起こります。

火星だけじゃない～太陽系の仲間たち







金星・・・月のような満ち欠けをします。
木星・・・表面の縞模様が観察できます。
土星・・・美しいリングが特徴です。

この夏は火星だけではありません。日没後、暗くなりはじめた西の空には金星が輝き、その東側には木星、土星と続き、南東の空にひときわ明るい火星が続きます。
私たちの地球と同じく、みんな太陽の周りを回る惑星です。
この夏は主な惑星を同時に見ることができるチャンスです。

資料のデータは国立天文台、天文年鑑、アストロアーツから引用しています。
使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆に見えます。
また、空のコンディション（雲、透明度）により、天体の見え方は違います。

9月の天文教室

開催日　９月26日（水）20時から21時まで
（受付は19時30分から市役所正面玄関で行います。）
事前の予約は不要です。

Matsue Astronomy Club
MAC 松江星の会